

令和 5 年 10 月 23 日現在

機関番号：33939

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12142

研究課題名（和文）多職種連携カンファレンスに必要とされる看護師の能力と基礎看護教育の役割の明確化

研究課題名（英文）Clarify the role of basic nursing education and the competencies of nurses needed for multidisciplinary conferences.

研究代表者

出原 弥和 (IZUHARA, MIWA)

名古屋学芸大学・看護学部・准教授

研究者番号：80320985

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：目的：多職種連携カンファレンスにおける看護師の役割を明確にすること、看護基礎教育での役割を検討する。研究方法：エスノグラフィー。

結果・考察：看護師は患者の情報提供、目標を設定し支援内容の検討や、患者の代弁者や理解者になり、カンファレンス運営も行っていた。看護師が認識していない役割として「患者・家族の理解者としての反応や態度」「他職種の意見に対する反応」があった。看護師は態度やしぐさで患者や家族に寄り添い、また他職種の意見への同意などの意思表示をしていた。これらの態度は、カンファレンスの進行に影響を与える。看護基礎教育において、明らかになった看護師の態度や姿勢について教育の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、多職種連携カンファレンスでの看護師が明確になった。看護師が認識している役割は、意図的のその役割をとることが可能である。しかし、本研究では看護師の自覚していない、カンファレンス内での態度や姿勢という側面からの役割も明確になった。自覚されていない役割を、言語化し看護師に発信していくことは、カンファレンスでの役割実践により貢献できるようになる。また、看護師の認識のあるなしに関わらず、カンファレンスでの役割が明らかになったことは、看護基礎教育での講義・実習において学生に、具体的に享受することができ、卒業後の実践の場においてカンファレンスで果たす役割を自覚し準備し参加することができる。

研究成果の概要（英文）：PURPOSE: To clarify the role of nurses in multidisciplinary conferences and to examine the education needed in basic nursing education. Research Methods: Ethnography.

RESULTS AND DISCUSSION: The nurses set goals and discussed support details from the information provided by the patient at the conference, became the patient's advocate and understanding, and also managed the conference. The roles that the nurses did not recognize but practiced were "reaction and attitude as a person who understands patients and families" and "reaction to the opinions of other professions. The nurses used attitudes and gestures to be close to patients and families, and also to express their agreement with the opinions of other professions. These attitudes and gestures influence the smooth progress of the conference. The results suggest the necessity of educating nurses about the attitudes and postures identified in this study in basic nursing education.

研究分野：基礎看護学

キーワード：多職種連携カンファレンス 看護師 役割 エスノグラフィー

1. 研究開始当初の背景

多職種が連携しチーム医療を行うためには、各職種が専門性を発揮し、職種間の垣根を払い、協議を行う機会である多職種連携カンファレンスが非常に重要である。多職種が参加するカンファレンスは、患者情報の共有はもちろん、効果的な問題解決や情報交換による技術の向上などの意義がある²⁾。

カンファレンスにおける看護師の役割としては、「ICN 看護師の倫理綱領」に、看護師の倫理的行為として、看護および他分野の協働者と協働的に相互を尊重する関係を維持することと示されているが、佐々木らは、看護師の約 3 割はカンファレンスが情報交換の場になっていないと認識していることや、約半数が必要を感じていないと述べており³⁾、看護師はカンファレンス参加に対し必ずしも肯定的な認識を持っているとはいえない。多職種が連携するためには、多職種間のコミュニケーションの難しさが障害になるといわれているが⁴⁾看護師がカンファレンスに肯定的でない理由として、コミュニケーションの苦手意識が影響を与えている可能性が考えられる。吉本は、医療福祉専門職の社会人スキルを調査し、薬剤師に次ぎ看護師が低かったことを報告している⁵⁾。この結果は、看護師の自己評価が低くコミュニケーション能力に自信が持てていないことを示唆する。看護師がカンファレンスにおいてコミュニケーションを苦手とする理由の一つとして、Gray は退院計画における役割の不明確さ⁶⁾をあげている。このことから、多職種連携カンファレンスでの看護師の役割が明確になっていない現状において、看護師は、看護師業務を実践してきた自らの経験によりカンファレンス内での役割を遂行している可能性がある。カンファレンスでの自分自身の役割が明確になることにより、看護師として求められている役割として、自信と自覚を持ちカンファレンスに臨むことができる。その結果、効果的なカンファレンスが運用され、患者ケアの質が向上するものと考えられる。

残念ながら、わが国では、自己の振り返りをもとに役割を整理・分析した事例検討はあるが⁷⁾、看護師自身が気づいていない役割を含めた多職種連携カンファレンス(退院前多職種カンファレンス)においての看護師の役割を明確にしたものは見当たらない。

2. 研究の目的

多職種連携カンファレンスにおいて看護師の役割の実態明らかにし、看護基礎教育での教育的介入の方法を検討する。

3. 研究の方法

(1) 研究デザイン: 質的記述的研究及び観察研究

(2) 調査対象

多職種連携カンファレンスへの参加観察

対象: 多職種連携カンファレンスに参加する専門職職員

インタビュー調査

対象: 多職種連携カンファレンスに参加経験のある看護師・医師・薬剤師・リハビリ技師・福祉職。職種の設定は、退院支援を必要とする対象者の多くが高齢者であることから、高齢者ケアに関わる可能性の高い職種とした。

(3) データ収集期間: 2019 年 9 月 ~ 2022 年 4 月

(4) データ収集方法

多職種連携カンファレンスに研究者が参加観察者(カンファレンス討議には参加しない)として参加し、フィールドノーツを作成した。観察する看護師の言動は、広田らの退院支援に関わる多職種との情報共有における病棟看護師の役割⁸⁾で報告された 8 つのカテゴリーをチェック項目として記述を行い、これに当てはまらない言動はその他として記述を行った。

インタビュー調査

研究対象者に個別に退院カンファレンスにおいて看護師に期待する役割についての半構造化面接を行った。

(5) データ分析方法: 観察データはフィールドノーツの記述を対象に、エスノグラフィーの分析法の手順に従って分類をした。インタビューデータは、テーマティック・アナリシス法に基づきコード化を行った。分析は研究者 4 名で行い、信頼性と妥当性の確保に努めた。

(6) 倫理的配慮: 三重大学医学部倫理委員会(承認番号: U2019-021)および病院長、看護部長の承認を得た。

4. 研究成果

(1) 研究結果

参加者の概要

多職種連携カンファレンスへは、7 事例の多職種連携カンファレンスで観察者として参加を行った。カンファレンスのテーマとなった対象者はすべて 80 歳以上で、自宅への退院調整が 6 件で、施設への入所調整が 1 件であった。参加者は、ケアマネージャー、主治医、病棟看護師(受け持ち看護師)、地域連携室看護師は全ケースで出席があった。また、患者、家族とも出席があったケースは 3 件、家族のみは 3 件、患者本人のみは 1 件であった。さら

にケースにより、訪問看護師、社会福祉協議会(社会福祉士)、栄養士、デイケア職員の参加があった。

インタビュー調査の対象者は、看護師4名、医師3名、リハビリテーション療法士3名、薬剤師6名、ケアマネージャー3名であった。

多職種連携カンファレンスで看護師の行っている役割

退院前多職種連携カンファレンス開催の調整

A 病院での退院支援は、患者の入院とともに受け持ちの看護師が検討を始め、退院が視野に入った時期を考えて多職種連携カンファレンス(以後多職種カンファレンス)が開かれていた。

多職種カンファレンスでの看護師の役割の実際フィールドノートに記載された看護師の発言や行動・態度を意味のある文節に分けて、文脈から解釈した結果、以下AからFの6つのカテゴリーに分類した。

A. 患者・家族の理解者、B. 情報提供と情報共有、C. 他職種の意見に対する反応、D. 患者・家族に必要な支援の提案、E. 今後の支援の確認と目標の共有、F. カンファレンスの運営
看護師が認識している多職種連携カンファレンスでの役割

多職種連携カンファレンスの参加経験のある看護師へのインタビューデータから以下aからhの8つのカテゴリーに分類した。

a「多職種から情報収集を行う」、b「多職種への情報提供をおこなう」、c「患者・家族の代弁者」、d「退院後のケアプランの提案」、e「問題点を明確にする」、f、「カンファレンスの司会進行」と、g「退院後の受け入れ側の不安への対応」、h「カンファレンスが円滑に進むような姿勢や態度」、i「患者や家族が納得するようにカンファレンスを進める」のカテゴリーに分類された。

看護師の認識していたカテゴリーa~eは、退院後のケアを具体的に検討し決定していく役割である。一方カテゴリーf~iは、カンファレンスの参加者に対する配慮を行い、場の調整役割を行っていた。チーム医療が円滑に機能するためには、関わる職種間での意見交換や情報の共有、支援方法を検討するカンファレンスは必要不可欠である。看護師は、多職種連携退院支援カンファレンスでは、ケアプランを検討するだけでなく、カンファレンスに参加する多職種や患者・家族への配慮を行い、効果的にカンファレンスが運営されるための場づくりの役割も担っている。

他職種が期待する看護師の多職種連携カンファレンスでの役割

医師から「医師の活用」という、カンファレンス内で医師の意見をうまく引き出したり、タイミングを計り医師に意見することや、「多職種カンファレンスの企画」として、退院調整を目的とした多職種カンファレンスを推進し、実施することが期待されていた。

薬剤師は、「患者の生活の状況について情報の提供」を看護師に望んでいた。また、「相談をする」では、薬剤師は、看護師から多くの質問や相談を受けたいと考えていた。

リハビリテーション療法士は、看護師に「リハビリテーションへの要望をする」ことへの期待をしていた。看護師の持つ患者の情報をもとに、どのような成果を望むのかについて相談をして、退院までの期間のリハビリテーションを進めていきたいと考えていた。

ケアマネージャーは、「生活情報の提供や情報共有」を看護師に望んでいた。その際には、医療職でない職種のことを考え、参加している職種の理解度を考えた言葉の選択や専門用語の説明を期待していた。

(2) 考察

多職種連携カンファレンスを開催する上での看護師の役割

看護師は、カンファレンスでの役割について、カンファレンスの前、カンファレンス中での役割があると認識をしていた。カンファレンス前では、効果的なものとするために事前に他職種と連絡調整をしたり、病棟、地域連携室との看護師間での情報の共有もカンファレンスでの役割と認識されていた。カンファレンス中の役割について、患者の情報提供や患者・家族の代弁者としての役割、また問題点の明確化・退院後のケアプランの提案、他職種から出されたケアプランへの意見、カンファレンスの司会進行などカンファレンスへの直接的な役割と、うなずきや視線など、カンファレンスで患者・家族の意向を引き出すために非言語的なメッセージを送ったり、他職種から出された提案や意見などへの同意のためのうなずきなど、カンファレンスを円滑に進めるための態度や姿勢を取っている役割があることが明らかになった。広田らは、退院支援に関わる多職種との情報共有における病棟看護師の役割⁸⁾として、1 患者の状況の情報提供 2 病状の把握 3 多職種と患者の橋渡し 4 患者の理解者 5 キーパーソン 6 問題点の抽出 7 カンファレンスの開催 8 目標の共有をあげているが、それらとも一致が見られる。

一方、看護師は認識していないが、行っている役割として、「カンファレンスが円滑に進むような姿勢や態度」「他職種の意見に対する反応」が多数観察された。この看護師の行動は、カンファレンスでは言葉による発信だけでなく、態度や反応を使って患者や家族に寄り添い、また他職種の意見への同意などの意思表示と考える。看護師のこのような態度や姿勢は、患者・家族や参加している専門職に安心感とチームへの一体感を与え、カンファレンスの円滑な進行に影響を与える。

他職種から看護師への期待

カンファレンスでは、看護師は必ず患者情報の提供を行っている。しかし、他職種からは患者情報提供について要望があったことは、他職種が期待している情報が十分に提供できていないといえる。カンファレンスに参加するために、看護師は情報提供用紙を記載し準備を行うが、提供する患者の生活状況や ADL について、場面等を取り上げて参加している専門職がイメージできる工夫が必要である。また、医療専門職だけでなく福祉専門職も参加するため、医療用語や看護用語の使用には注意を払う必要がある。

他職種から、看護師から相談をしてほしい、自分たちを活用してほしいという要望があり、看護師は他職種との連携をもっと深め、連携の方法や内容を検討する必要がある。そのためには、他の専門職の役割を看護師が正確に詳細に理解しておくことが重要である。

看護基礎教育への示唆

現行の看護基礎教育のカリキュラムでは、卒業時の実践能力の 1 つとして、『保健・医療・福祉 チームにおける多職種との協働』をあげており、その到達目標は、「保健・医療・福祉チームにおける看護師及び他職種の機能・役割を理解する」「対象者をとりまく保健・医療・福祉関係者間の協働の必要性について理解する」「対象者を含むチームメンバーと連携・共有・再検討しながら看護を実践する」としている(2017, 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標(改正案))¹⁰⁾。伊藤らの調査では、IPE を実施しているのは、大学では 58.7%、養成所では 5.7% である¹¹⁾。看護教育の中で他職種との学習(他職種連携教育)の機会ができるようマネジメントすることは重要である。また、他職種の業務や活動内容、活動の場などについて、低学年から各領域での実践例などを通し、学生が他職種の理解ができるよう教育内容や、事例での看護師の役割を検討できる学習方法が必要と考える。

(3)まとめ

看護師が認識している多職種連携カンファレンスでの役割は、「患者・家族の理解者」、「情報提供と情報共有」、「他職種の意見に対する反応」、「患者・家族に必要な支援の提案」、「今後の支援の確認と目標の共有」、「カンファレンスの運営」であった。

看護師が実践している多職種連携カンファレンスでの役割は、「多職種から情報収集を行う」、「多職種への情報提供をおこなう」、「患者・家族の代弁者」、「退院後のケアプランの提案」、「問題点を明確にする」、「カンファレンスの司会進行」と、「退院後の受け入れ側の不安への対応」、「カンファレンスが円滑に進むような姿勢や態度」、「患者や家族が納得するようカンファレンスを進める」であった。

「患者・家族の理解者としての反応や態度」「他職種の意見に対する反応」の役割は、看護師は認識せずに実践していた役割である。看護師はカンファレンスで言葉による発信だけでなく、態度や反応を使って患者や家族に寄り添い、また他職種の意見への同意などの意思表示をしていた。

看護基礎教育において、多職種が参加するカンファレンスでの看護師の役割を明確に示したテキストはないが、今回明らかになった看護師の態度や姿勢について享受していくことの必要性が示唆された。

引用・参考文献

- 1) 厚生労働省 介護・福祉地域包括ケアシステム (2023 年 6 月 20 日アクセス)
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiki-houkatsu/
- 2) 斎藤中哉他 (2011): 多職種参加型カンファレンスの意義と実際, 日本心臓リハビリテーション学会誌, 第 16 巻第 1 号, P.72-76
- 3) 佐々木謙一他 (2017): 総合病院精神科病棟における退院支援の課題 合同カンファレンスに対する医師, 看護師への意識調査, 仙台医療, センター医学雑誌, 7 巻, P.45-50
- 4) 今野弘子 (2017): 療養病床を有する高齢者医療施設の退院支援における多職種連携についての職員の認識, 老年看護学, 第 21 巻第 2 号, P.59-66
- 5) 吉本尚 (2014): 文部科学省委託事業「在宅・地域ケアにおける『多職種連携力』を持つ中核的専門人材育成プログラム開発事業」チャレンジ! 多職種連携, <http://www.ipeipw.org>
- 6) Gray C, others(2016): Nursing-initiated and criterion-led discharge from hospital for children and young people, Nurse Child Young People, 7;28(8):26-29
- 7) 斎藤淳子 (2016): 長期入院患者の退院支援 退院調整看護師として受け持ち看護師との連携を考える, 日本精神看護学学術集会誌, 第 59 巻第 2 号, P.53-57
- 8) 弘田美智子他 (2018): 退院支援に関わる多職種との情報共有における病棟看護師の役割, 日本看護学会論文集, 第 48 回, P.7-10
- 9) ホロウェイ, ウィーラー(2003): ナースのための質的研究入門, 医学書院
- 10) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標 (改正案) (2023 年 6 月 25 日アクセス)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000552462.pdf>
- 11) 伊藤裕佳ほか (2022): 看護師等学校養成所における専門職連携教育の実装状況と課題, 保健医療福祉連携 15(1)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 出原 弥和	4. 巻 23
2. 論文標題 多職種連携退院支援カンファレンスにおいて看護師が果たしている役割	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 太成学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 MIWA Izuhara
2. 発表標題 Learning effects of simulated case study conferences by nursing students and pharmacy students
3. 学会等名 23th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 出原 弥和
2. 発表標題 Learning effects of simulated case study conferences by nursing students
3. 学会等名 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars（国際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	後藤 道子 (GOTO MICHIKO) (10608946)	三重大学・医学系研究科・講師 (14101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	篠田 かおる (SHINODA KAORU) (70329829)	愛知医科大学・看護学部・准教授 (33920)	
研究分担者	若林 英樹 (WAKABAYASHI HIDEKI) (00378217)	三重大学・医学部・教授 (14101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関